

安定多収となる普通期水稲「ひなたみのり」の施肥量

「ひなたみのり」は基肥－穂肥Nが5－3kg/10a施用で、安定多収が期待できる

背景・目的

- 令和5年度から飼料用米「ひなたみのり」が県内において普及が進む中、安定多収に向けた栽培方法について、明らかにする必要があります。
- そこで、普通期水稲における「ひなたみのり」の最適な施肥量について検討しました。

成果の内容

- 生育量（草丈×莖数×SPAD）と精玄米重は正の相関関係にあります（図1）。
- 基肥窒素量は5kg/10aと7kg/10aで初期生育における生育量の差がなく、成熟期においても稈長及び穂数の差が確認されないため、基肥窒素量は5kg/10aが最適です（表1、図2）。
- 穂肥窒素量は3kg/10aと5kg/10aでは精玄米重の差がないため、穂肥窒素量は3kg/10aが最適です（表1、図2）。

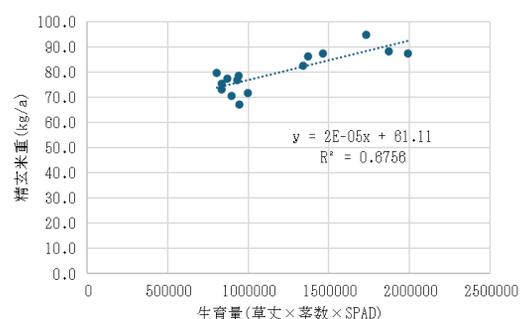


図1 生育量と精玄米重の関係

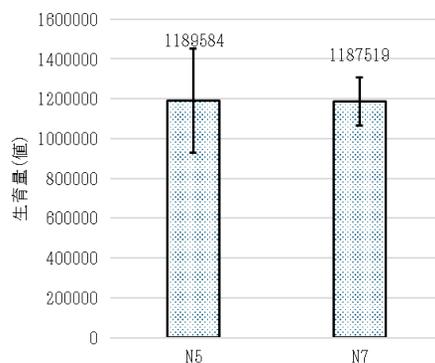


図2 基肥窒素別の生育量(草丈×莖数×SPAD)

表1 生育及び成熟期調査結果

試験年度	試験区	生育調査(+50)			稈長 (cm)	穂数 (本/㎡)	精玄 米重 (kg/a)	粒数		登熟 歩合 (%)	玄米 千粒重 (g)
		草丈 (cm)	莖数 (本/㎡)	SPAD				1穂当 (粒)	㎡当 (百粒)		
2023年	N5+3	89.6	482	38.5	95.1	268	86.8	153	409	82.2	26.0
	N7+3	91.2	456	38.4	97.5	254	85.4	161	410	80.1	25.8
	N7+5	88.4	463	39.2	94.2	272	91.1	161	438	78.5	25.7
2024年	N5+3	80.1	328	32.8	95.5	214	73.3	180	434	70.1	24.9
	N7+3	80.8	342	33.1	96.9	217	77.6	180	451	64.8	24.7
	N7+5	80.8	344	32.7	96.3	231	72.5	182	485	60.7	24.8
2ヶ年平均	N5+3	80.1	328	32.8	95.5	214	73.3	180	434	76.2	25.5
	N7+3	80.8	342	33.1	96.9	217	77.6	180	451	72.5	25.3
	N7+5	80.8	344	32.7	96.3	231	72.5	182	485	69.6	25.3
分散分析表試験年度(A)		**	**	**	n.s.	**	**	**	**	**	**
基肥量(B)		n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	*	*	n.s.
(A) × (B)		n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.

※SPADは「ミルカSPAD-502」による測定

※n=2(2022年)、n=3(2023年)

※分散分析表：*は5%水準、**は1%水準で有意差有り、n.s.は有意差無し

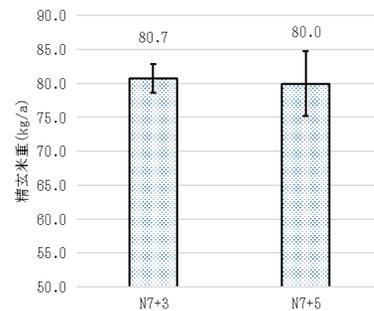


図3 穂肥量による精玄米重への影響

成果の活用方法(又は期待される効果)

- 地域別の栽培暦等の技術資料への活用が期待されます。
- 普及対象：普通期水稲（北諸県、西諸県、東臼杵南部、東臼杵北部）

留意点

- 6月中旬移植の結果です。

関連研究成果カード：2025年度整理番号 6

関連事業名：地域の水田農業を支える稲作技術の開発（県単）

研究期間：2023～2024年度